

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報  
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一  
京都市中京区木屋町通三条上ル  
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

スイスは「当たり前前は当たり前!明瞭!」

スイスの金融機関関係者二名と京都の著名焼き肉店大詔閣で会食、その後BAR飛鳥で一杯の折「スイスでは当たり前前は当たり前、私の年金積み立ては個人の積み立てとその倍相当の企業が積み立ててくれた金額をネットで個人番号を入力すると合計残高が即座に出てくる」と言った話にマスターも聞き耳を立てていました。

私が自分の積み立てた年金額を知ったのは65歳時、年金課からの問い合わせに応じ初めて知りました。ところが私のために企業が積み立てた金額は不明で、明らかではありません。そこが最もおかしいところだとスイス関連の二人は言い切り、だから若者は年金積み立てをする気になれないと言った話が続き、二人とも高負担ですがスイス政府に納得して居ました。何かにつけ不明瞭で曖昧な日本の未来はどうなるのでしょうか?

ひとしな「枝魯枝魯」日仏米で活躍枝國栄一さん

開店から二十年、川端四条から西木屋町松原にそして八年目にパリ・モンマルト店、十一年目にハワイ・ペンサコラ・アラモアナ店開店と枝國さんは世界に「割烹ひとしな料理」を創作発信されました。著書の題名通り「割烹はリーズナブルでどなたにも京料理を堪能いただく目的で彼が挑戦、日本はおろか世界に認められています。京都本店では当然リーズナブルで京料理が戴けるものですから世界から京都目指しお越しになります。通常予約は取り難いですが、比較的予約が取りやすくなるのは夜八時以降です。私は菊池功(当時アサヒビル)さんに紹介戴き毎月程度通っています。10種類のお料理が、素敵な枝國さん好みの焼き物に載せて出てきます。月替わりのメニューで毎月訪問が楽しみです。著書『くずし割烹―調味醬油で素材を活かす―』『野菜で酒菜―くずし割烹 枝魯枝魯流』

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《奇跡の経済教室 基礎知識編 / 中野剛志著》

MMTは日本経済の救世主になれるのか? MMTはModern Monetary Theoryの略であり現代貨幣理論と訳される。MMTは「信用貨幣論」と呼ばれている貨幣理論が基礎となっている。それは「貨幣とは負債の二形式であり経済において交換手段として受け入れられた特殊な負債」「貨幣は譲渡可能な負債である」というのも、貨幣が負債とは一般にはなかなか理解しがたい考えである。著者は今日一般に信じられている「商品貨幣論」は間違っており、その理論に基づく主流派経済者が唱える経済政策が上手くいかない理由がここにあるとし「主流派経済学は宗教である」とまで述べている。この様に一般常識からはかなりかけ離れたMMTではあるが筆者が「これ以上は無理!」と述べるほど非常に分かりやすく書かれているので入門書として最適である。本書の帯には「経済常識が180度変わる衝撃」とあるがそれは決して誇張ではない。

土口哲光和尚の説法

《友情も愚かがいい》

先達である愛媛県川之江の定蓮寺曾根義泉前住職がスキルス性胃癌を発症してから五ヶ月で逝去。八五歳の命を最後まで説法で締めくくった。痛まざ、苦しまず静寂のうちに高野山大学時代からの親友に看取られ、「ニルバナー(涅槃)」へ向かった。人生で死が最も荘嚴の時だといわれ、先達の生き方に心を強く引かれた。春に会った折りと異なり、夏になると、げっそり痩せこけ、「あなたと同じ病を戴いたヨ。胃が食べ物を寄せつけない」と。「家族も同意のうえ、学生時代からの親友に同行し説法を続けて行く。ずっこけて、立派過ぎない学生時代のままに、こんな私と共にしてもらえなのが何よりの宝です。友情は愚かもの同士だからこそ続くもの」と。

季節の家庭料理 田村 真紀

《十二月 カリフラワーとポテトのグラタン》

《作り方・四人分》

カリフラワー半個・ジャガ芋二個・玉ねぎ一個・ベーコン五十グラム・牛乳一カップ・バター二十グラム・薄力粉大匙二・顆粒コンソメ小匙二・塩コショウ少々・ピザ用チーズ、刻みパセリ各適量

カリフラワーは小房に分け、塩少々を加えた熱湯で固めにゆでる。ベーコンは二センチ幅に切る。ジャガ芋と玉ねぎは薄切りにし、バターを熱したフライパンでしんなりするまでじっくり炒める。ベーコンとカリフラワーを加え更に炒め、薄力粉を混ぜ合わせる。牛乳を少しずつ加え、とろみがつくまで加熱する。コンソメ、塩コショウで調味し、耐熱皿に移しチーズをたっぷり広げる。二百五十度のオーブンで十分加熱する。パセリを飾る。

つれづれの記 山崎 辰巳

《デッドストック》

需要が活発で手薄になっていく健全な在庫(ランニング・ストック)は兎に角、倉庫に眠ったまま売れる見込みのない不動・不良在庫は製造・販売業にとって悩みの種である。この在庫。我々の日常に山積し不用になつていく家財道具や衣服類、さらに心の中に滞り送って、持ち越されていく課題という「在庫」は、考えればもつと厄介だ。懸案になっていく原発問題や国際紛争、気候変動や虐待など、余りにも大きすぎる課題という在庫も片つきり。秋の始業前に親、兄弟の手を借りて片づく夏休みの宿題のように簡単にはいかない。せめて頭や心の中で先送りしているデッドストック(死蔵在庫)だけでも早急に一掃したいものだ。